

WILCOMM

導入手順書

CSVコンバージョン・ツール

For Wilcomm Ver.8.03

INS032 (Last Update : 2017/02/02)

WilComm AS400 Ver.8.03

© Copyright 2017.
株式会社フェアディンカム

本解説書は、ウィルコム Ver.8.03 用 CSV コンバージョンツールの導入手順について解説しております。
このマニュアルで作業を行うためには、ウィルコム及び、AS/400の操作、CLプログラムの修正ができる事が
前提となります。

ハードウェア要件

iSeries(AS/400)

ソフトウェア要件

OS/400 V5R3M0以上
ILE RPG のコンパイルが可能である事
WilComm Ver.8.03

1. 機能概要

CSV コンバージョンツールは、以下のような機能を持ったツールになります。

1. 物理ファイルのデータを CSV ファイルに変換します。
2. 変換した CSV ファイルを IFS（統合ファイルシステム）にあるフォルダへ保管します。
3. IFS に保管された CSV ファイルを WilComm と連携して、メールにて送信を行います。

機能別に、以下の3つのコマンドが用意されています。

[SNDCSVWM]

物理ファイルを CSV ファイルに変換し、メールに添付して送信します。
CL プログラムに組み込んで使用します。（コマンドラインからの実行は不可）

[SNDCSVWMT]

SNDCSVWM の機能をコマンドラインから実行するための、テスト用コマンドです。
実行後にコマンドから戻される、シフトコード整合性検査の結果と、WilComm へ渡されたメッセージの番号は受け取れません（画面の左下に表示されます。）

[SNDCSVWA]

物理ファイルを CSV ファイルに変換し、指定された IFS 上のフォルダへ保管します。

2. インストール

- * この導入作業によって、AS/400 上に新たに **WILCOMMCSV** というライブラリーが作成されます。すでに WILPLEXCSV や WILCOMMCSV という名前のライブラリーが存在していた場合、バージョンアップとなりますので、バージョンアップ用のマニュアルを参照して下さい。

1. CD-ROMをAS/400のCD-ROMドライブにセットして下さい。

2. **QSECOFR** でサインオンして下さい。

以下のシステム値について、設定を確認します。

(システム値の変更は、他システムへの影響がないことをシステム管理者に確認してください。)

QALWOBJRST : 設定されている値を控えて、*ALL に設定します。

インストールが終わったら元に戻して下さい。

QVFYOBJRST : 設定されている値を控えて、1 に設定します。

インストールが終わったら元に戻して下さい。

(このシステム値は、OS のバージョンによっては、存在しない場合があります。)

3. 以下のコマンドを実行して下さい。

LODRUN DEV(*OPT) (ライブラリー**WILCOMMCSV** がレストアされます。)

CD-ROM ドライブが複数存在している場合は、*OPTではなく、正しいデバイス名を指定して下さい。

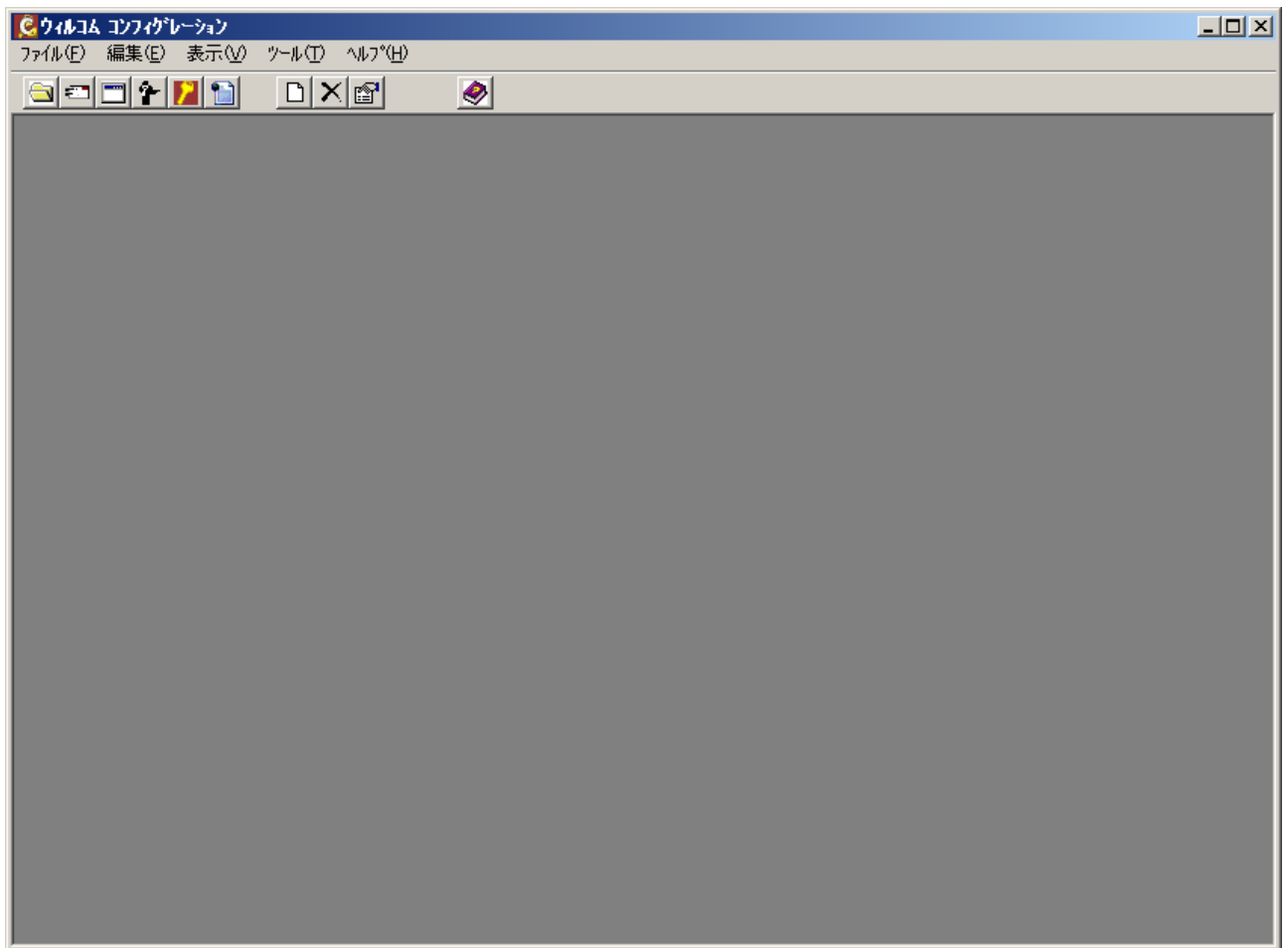
3. メール差出人の設定

メールの差出人は、コマンドパラメータの実行ユーザー名によって決定されます。
以下の手順にて設定を行って下さい。

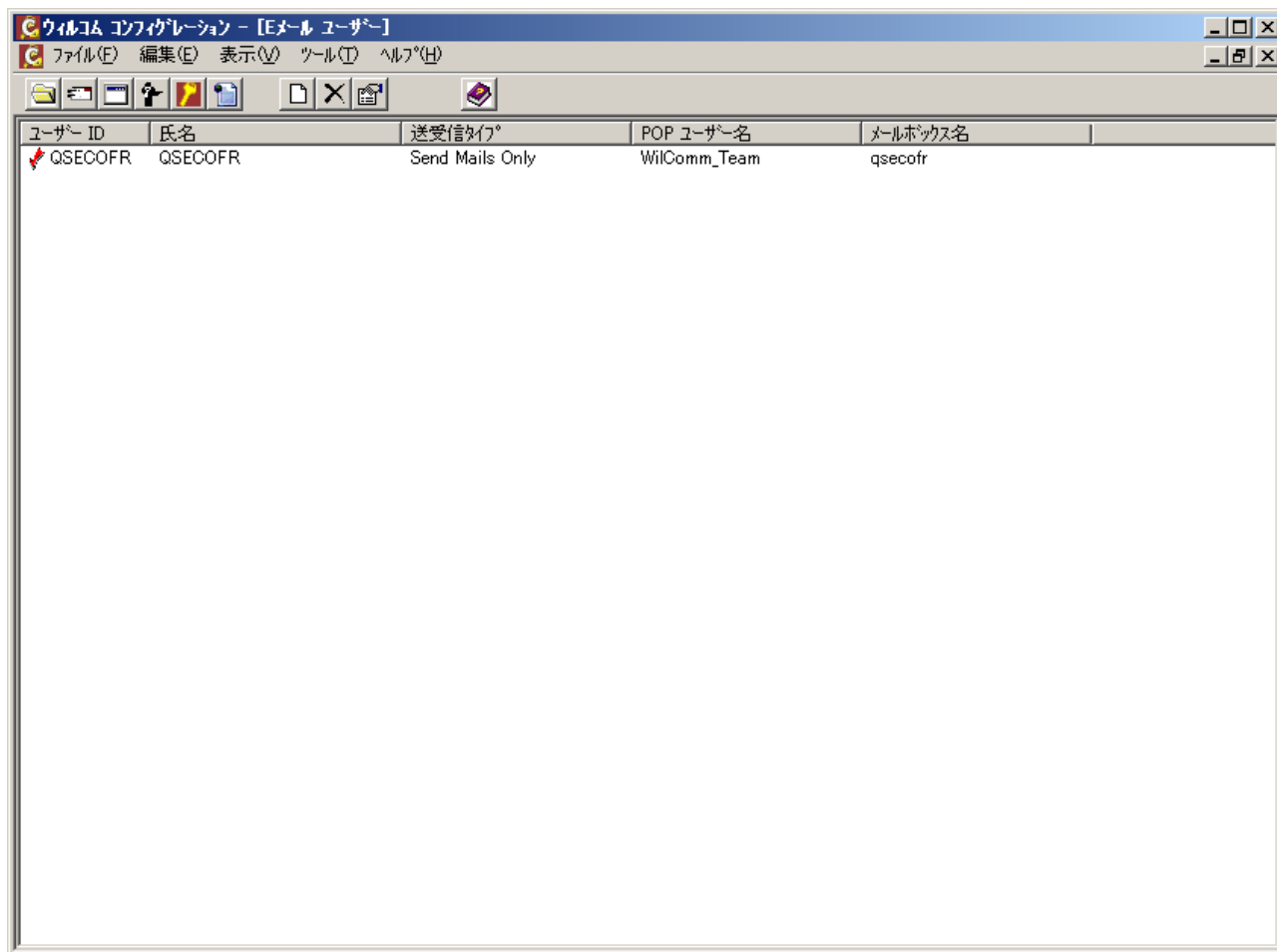
1. デフォルトユーザーの設定

デフォルトユーザーを設定しておくことで、WilComm に対して登録を行っていないユーザーでも SNDCSVWM コマンドを実行できるようになります。

PC サーバーの WilComm アプリケーション WilComm Config を実行します。



[表示]－[E メールユーザー]を実行します。



登録されているユーザーの中で、ユーザーID の左側に赤いチェックマークが付いているユーザーをダブルクリックして開きます。

このユーザーは、ここで未登録のユーザーが E メール送信をしようとした場合、代わりに使用されるデフォルトのユーザーになります。

ウイルコム Eメール ユーザー レコードの編集

ユーザー ID:
ウイルコム Eメール ユーザーのユーザー IDは、重複して使用することはできません

氏名:

送受信タイプ:
 送信のみ 受信のみ 送信と受信

メール受信

POP ユーザー名:

POP パスワード:

POP パスワード:

デコードした添付ファイルを保管するディレクトリ:
 ...

メール送信

メールボックス名:
メールボックス名は、Eメール アドレスの "@" マークの左側部分

送信メールに添付するファイルを取り出すディレクトリ:
 ...

ウイルコム Eメール メッセージ送信用にEメール ユーザーが設定されていなかった場合、このEメール ユーザーを送信者として使用する。

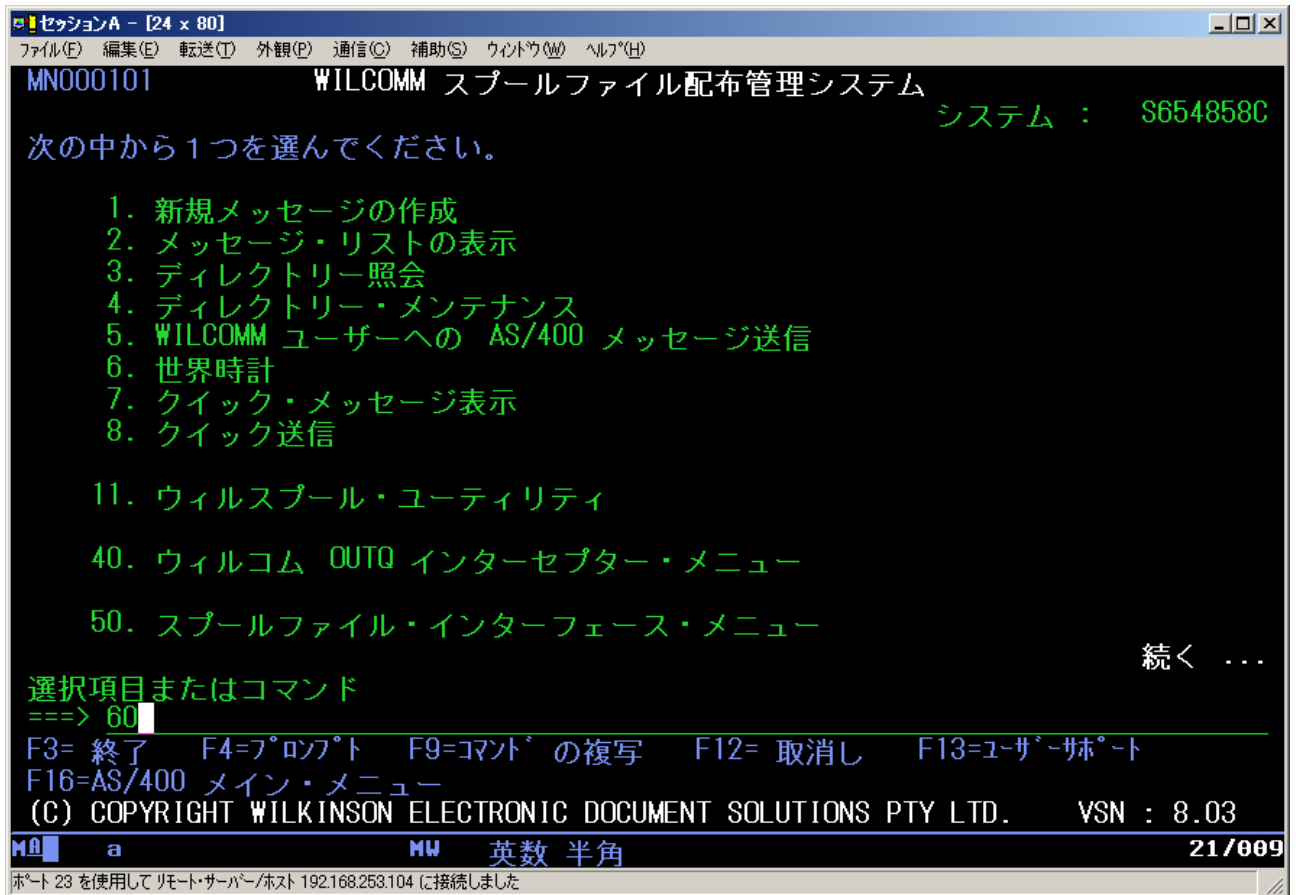
OK キャンセル

CSV ファイルが保管されるフォルダのパスを指定します。
 WilComm の使用しているフォルダを I ドライブにマップしている場合には、上記の例のように I:\CSV を指定します。

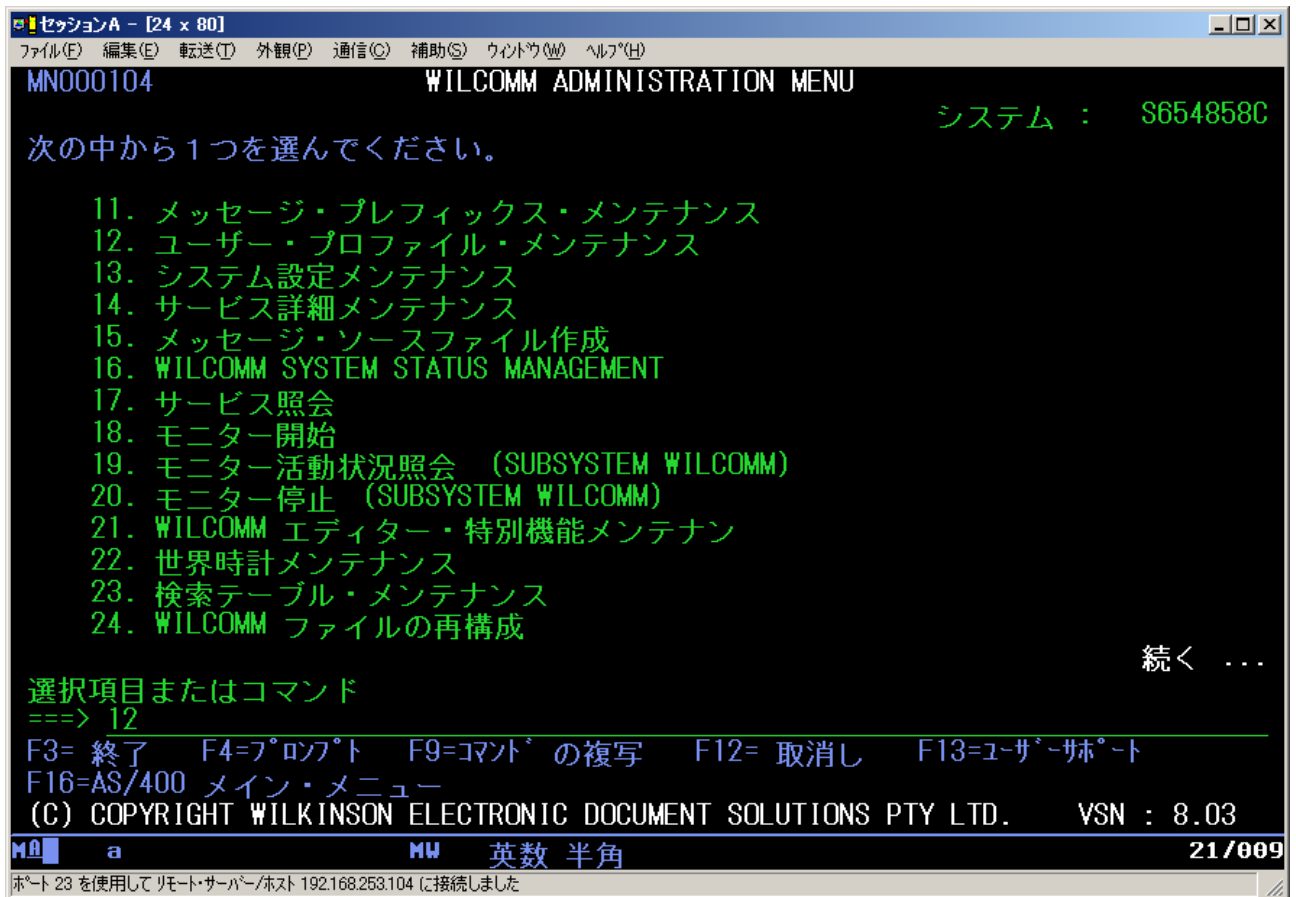
2. ユーザーの登録

ユーザー毎に差出人のメールアドレスを指定したい場合、ユーザーの登録を行います。

QSECOFR でサインオンして、コマンドラインから GO W を実行します。



WilComm のメインメニューが表示されましたら、コマンドラインに 60 を入力して実行します。



WILCOMM ADMINISTRATION MENU が表示されましたら、コマンドラインに 1 2 を入力して実行します。



WILCOMM - 登録ユーザーメンテナンスの画面が表示されましたら、QSECOFR の左側に 3 を入力して実行します。



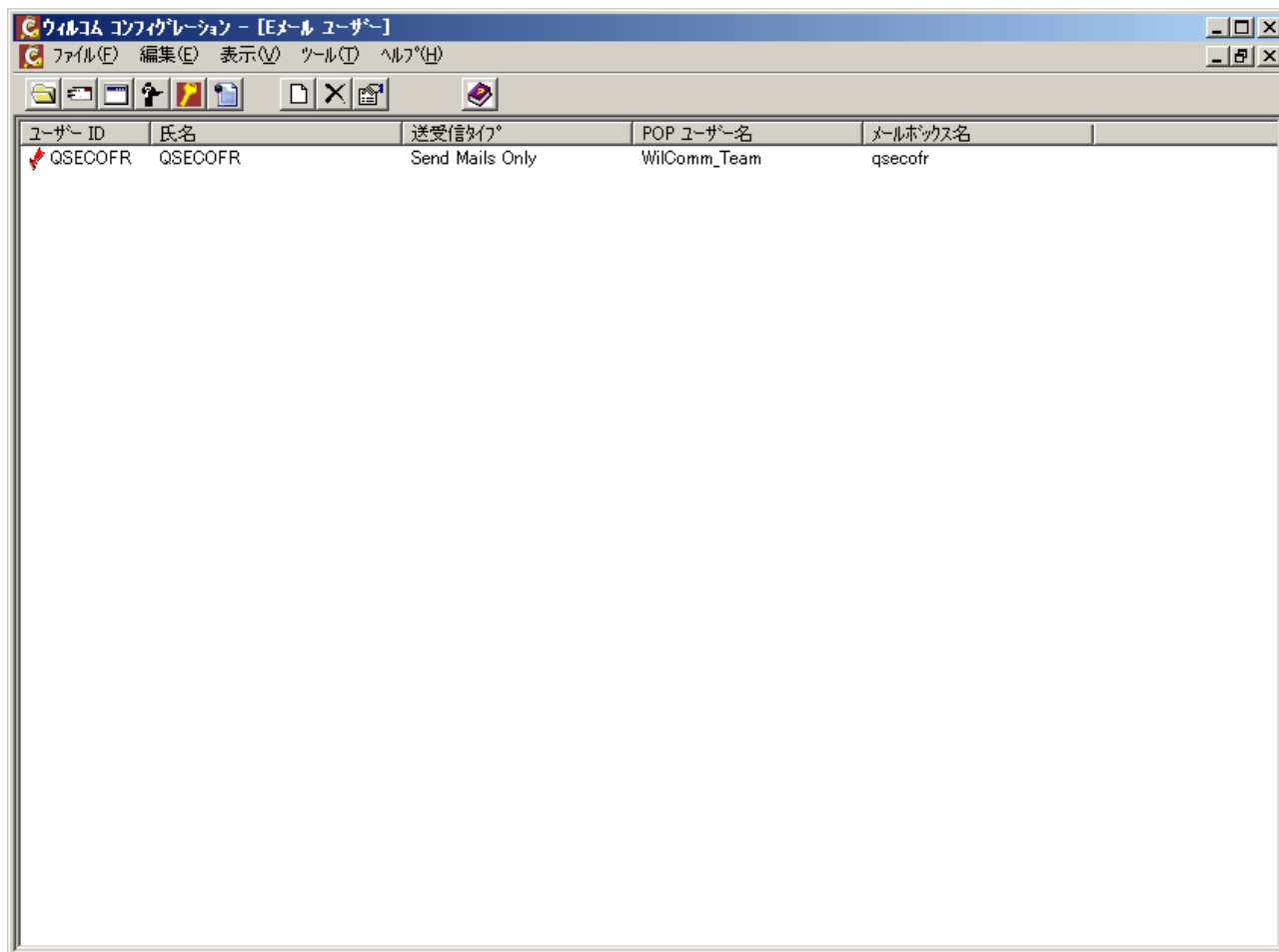
WILCOMM・プロファイルコピーの画面が表示されましたら、TO の欄に、登録したいユーザープロフィールを入力して実行します。



フルネームの欄に入力されている値が、シングルバイト文字のみの場合、先頭から 25 バイトが差出人の情報（ユーザーID）として使用されます。
 ダブルバイトを含んでいる場合は、ユーザープロフィール名がユーザーIDとして使用されます。

この差出人情報で、PC サーバー側の E メールユーザーに登録されているユーザーIDを検索し、登録されている場合は、その設定が使用されます。
 未登録の場合は、先に設定したデフォルトユーザーの設定が使用されます。

PC サーバー側で、WilComm Config を実行し、E メールユーザーの画面を開きます。



[編集]－[新規作成]を実行します。

新規ウィルコム Eメール ユーザーの追加

ユーザー ID: WILCOMM USER
ウィルコム Eメール ユーザーのユーザー IDは、重複して使用することはできません

氏名:

送受信タイプ:
 送信のみ 受信のみ 送信と受信

メール受信

POP ユーザー名:

POP パスワード:

POP パスワード: *****

デコードした添付ファイルを保管するディレクトリ:

メール送信

メールボックス名:
メールボックス名は、Eメール アドレスの@マークの左側部分

送信メールに添付するファイルを取り出すディレクトリ:

ウィルコム Eメール メッセージ送信用にEメール ユーザーが設定されていなかった場合、このEメール ユーザーを送信者として使用する。

OK キャンセル

ユーザーID に、AS400 側で登録したユーザーのユーザーID を入力します。

CSV ファイルが保管されるフォルダのパスを指定します。
 WilComm の使用しているフォルダを I ドライブにマップしている場合には、上記の例のように I:\#CSV を指定します。

送信タイプ、POP ユーザー名、POP パスワード、メールボックス名などの設定につきましては、以下の通りです。

氏名	メールアドレスの名称に使用されます。上記の例ですと、以下のようになります。 WilComm mail user <newuser@domainname.co.jp>
送受信タイプ	受信を行わない場合、「送信のみ」にチェックします。 メールサーバーが POP before SMTP というセキュリティ設定がされている場合、「送信と受信」にチェックをします。
POP ユーザー名	メールの受信で使用するアカウント名を設定します。通常はメールボックス名と同じになります。 SMTP 認証を使用されている場合、送信のみであっても設定が必要になります。
POP パスワード	POP のパスワードを2つのフィールド両方に入力します。
デコードした添付ファイルを保管するディレクトリ	メール受信を使用する場合、受信メールに添付されたファイルを保管するフォルダーを指定します。 メール受信を行わない場合、デフォルト設定のまま変更の必要はありません
メールボックス名	送信元メールアドレスのアカウント部分を設定します。 メールアドレスの@マーク以降のドメイン名は、WilComm Server の設定で行います。

4. 新機能について

バージョンアップにともない、いくつかの機能が追加されております。

- DistributionWizard の設定が不要となりました。
- メール の 件名が、25 桁から 50 桁に拡張されました。(SNDCSVWM)
- ジョブの実行ユーザーで、メール差出人のメールアドレスが決定されていましたが、ジョブ実行ユーザー以外を指定可能となりました。(SNDCSVWM)
- コマンドを実行するユーザーは、事前に WilComm へユーザー登録が必要でしたが、未登録の場合、自動的に登録されるようになりました。
- メール本文のヘダー部分に、宛先名、差出人名、件名などが表示されるようになりました。
- データの両端に付けていたストリング区切文字(ダブルクォーテーション)を任意の文字に変更できるようになりました。(SNDCSVWM, SNDCSVWM)
- データを区切っていたフィールド区切文字 (カンマ) を任意の文字に変更できるようになりました。タブも指定可能です。(SNDCSVWM, SNDCSVWA)
- 数値フィールドのみ、ストリング区切文字を付けないという事が可能となりました。(SNDCSVWM, SNDCSVWA)
- 文字フィールドの後続ブランクを除去する事が可能となりました。(SNDCSVWM, SNDCSVWA)
- 文字フィールドの先頭に、シングルクォーテーションを付加する事が可能となりました。(SNDCSVWM, SNDCSVWA)
- シフトコードをブランクへ置き換える事が可能となりました。(SNDCSVWM, SNDCSVWA)
- ファイルデータに含まれる、シフトコードの整合性検査機能と修復機能が追加されました。(SNDCSVWM, SNDCSVWA)
- WilComm のメッセージリストに登録されたメッセージ番号を取得できるようになりました。(SNDCSVWM, SNDCSVWA)
- 生成される CSV ファイルのレコード長が、32766 バイトまで拡張されました。コマンドで指定できる物理ファイルのレコード長は、これよりも短くなります。処理内容によって異なりますが、CSV ファイルの 1 レコード目にフィールドテキストを挿入した場合、処理可能なフィールド数は、618 フィールド以内に制限されます。(SNDCSVWM, SNDCSVWA)
- SNDCV コマンド生成される一時使用のサブスクリイバーを削除する機能が追加されました。
- 処理実行時に生成された CSV ファイルを日付の指定により、削除する機能が追加されました。
- 作成した CSV ファイルを Zip 形式で圧縮するオプションが追加されました。Zip 形式で圧縮する場合、CSV ファイルと Zip ファイルの名前は、半角英数字のみとなります。

コマンドは以下の 3 種類で構成されています。

SNDCSVWM : CSV ファイルを作成し、メール送信を行います。

(対話型では実行できません、プログラムから呼び出して実行します。)

SNDCSVWMT : SNDCSVWM のテスト用コマンドです。(対話型で実行可能です。)

SNDCSVMA : CSV ファイルを作成し、指定された IFS 上のフォルダへ保管します。

(対話型で実行可能です。)

コマンドの詳細につきましては、**CSV022 「ウィルコム CSV コンバージョンツール機能説明」** を参照して下さい。